

平成23年度沖縄群島病害虫発生予報第9号(12月予報)

I 12月の気象予報

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	平均気温	降 水 量	日照時間
高い(多い)	50	40	20
平 年 並	30	40	40
低い(少ない)	20	20	40

(平成23年11月25日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

平年値

	平均気温(°C)	最高気温(°C)	最低気温(°C)	降水量(mm)	日照時間(h)
沖縄群島(那覇)	18.7	21.2	16.3	102.8	115.6

(沖縄気象台発表・統計期間1981～2010・資料年数30年)

II 12月の発生予報および防除上の注意事項

1 さとうきび

- 生育初期におけるメイチュウ類の防除対策
 - a 11月下旬の調査の結果、新植圃場での芯枯茎率は5.2%であった。
 - b 圃場内外のイネ科雑草は本種の発生源となるため、除去する。
 - c 培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選定し施用する。
 - d イネヨトウが多発生している地域では、食入初期の幼虫を対象に防除を徹底する(平成23年度病害虫発生予察技術情報第3号(平成23年9月1日付)参照)。

2 マンゴー

- 花芽分化期の病害虫防除対策
 - a 11月下旬の調査の結果、チャノキイロアザミウマの葉当たり成虫数は0.3頭(前年0.1頭未満、平年2.5頭)と平年よりやや少なかったが、一部圃場で多く発生が見られた。
 - b チャノキイロアザミウマやハダニ類、カイガラムシ類の発生動向に注意し、防除を徹底する。
 - c チャノキイロアザミウマの寄主植物となる施設内外の雑草を除去する。
 - d 炭疽病、軸腐病およびかいよう病対策のため予防散布を行う。また、残渣物は速やかに施設外に持ち出し処分する。
 - e 現在発生している不要な新梢は、病害虫の発生源となることから、ビニール袋等に入れ圃場外に持ち出し処分する。

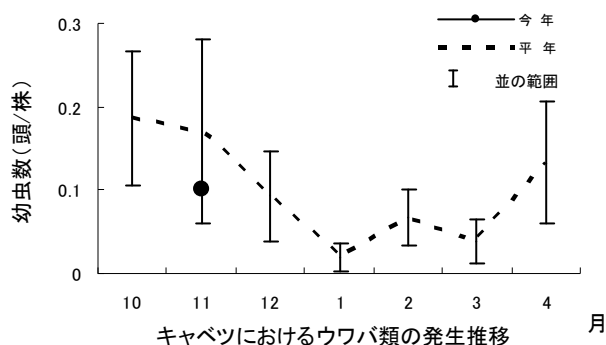
3 キャベツ

(1) ウワバ類

発生程度 : 並

予報の根拠

- 11月下旬の調査の結果、株当たり幼虫数は0.1頭(前年0頭、平年0.2頭)と平年並であった。
- 気象予報によると向こう1か月の気温は高い確率が50%、降水量は平年並の確率が40%であり発生に適していると考えられる。



<防除上注意すべき事項>

- 葉裏に多く寄生するので、葉裏をよく観察し、早期発見・早期防除に努める。
- 圃場周辺雑草の除去および収穫後の残渣処理を徹底し圃場衛生に努める。

4 レタス

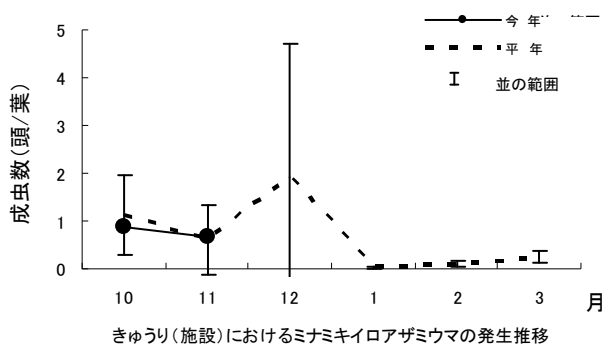
○シロガシラの防除対策

- 例年12月から被害が見られ、昨年度の被害面積は51.4haであった(県営農支援課まとめ)。
- 生育初期に被害を受けると生育を阻害され、結球後から収穫間近に被害を受けると商品価値の低下や収穫不能となる。
- 2cm目合い防鳥ネットを用い、レタスに接しないようにたるみなく圃場全体を完全に被覆する。
- 防鳥ネットを約2mの高さに箱型に設置する方法は、施肥防除等の管理作業に支障なく有効である(コラム参照)。

5 きゅうり(施設)

- (1) ミナミキイロアザミウマ
発生程度 : 並
予報の根拠

11月下旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.67頭(前年0.01頭、平年0.61頭)と平年並であった。



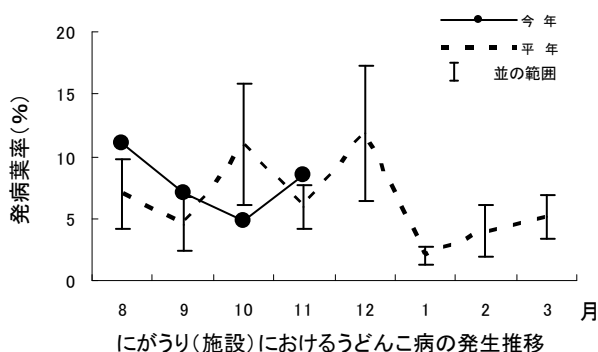
<防除上注意すべき事項>

- 本種は灰白色斑紋病や黄化えそ病の媒介虫である。
- 施設周辺の雑草は本種の発生源となるので、除草を行う。
- 摘葉等による残渣は本種の発生源となるので、ビニール袋に入れるなどして密閉し、施設外に持ち出して処分する。
- 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。
- 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

6 にがうり(施設)

- (1) うどんこ病
発生程度 : やや多
予報の根拠

11月下旬の調査の結果、発病葉率は8.5%(前年4.8%、平年5.9%)と平年よりやや高かった。



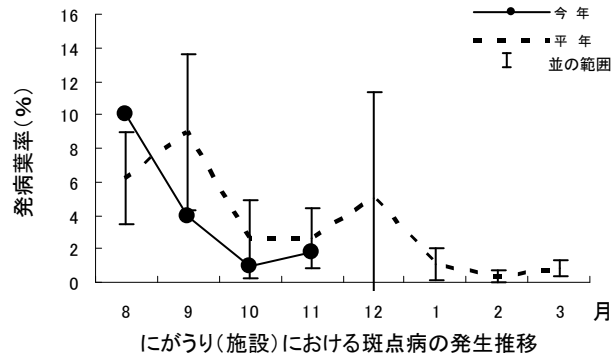
<防除上注意すべき事項>

- 密植を避け、透光通風を良くする。
- 老葉や病葉は発生源となるので、圃場内に放置せず、ビニール袋等に入れるなどして持ち出し処分する。
- 多発すると防除が困難になるので、早期発見・早期防除に努める。

(2) 斑点病

発生程度 : 並
予報の根拠

- a 11月下旬の調査の結果、発病葉率は1.8% (前年11%、平年2.7%)と平年並であった。
- b 気象予報によると向こう1か月の降水量は平年並または高い確率が40%と予想されており、本病の発生が助長されやすいと考えられる。



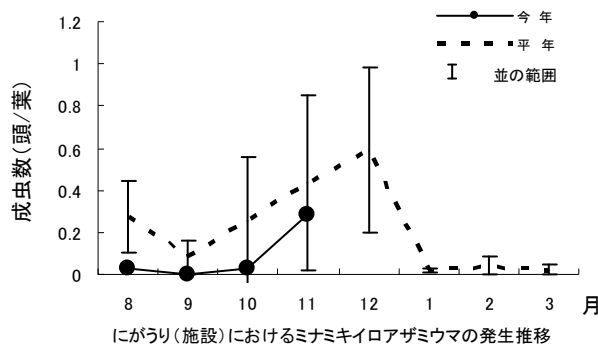
<防除上注意すべき事項>

- a 老葉や病葉は発生源になるので除去し、圃場外に持ち出して処分する。
- b 過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- c 多湿にならないよう、施設内の換気に注意する。
- d 葉をよく観察し、初期防除を徹底する。

(3) ミナミキイロアザミウマ

発生程度 : 並
予報の根拠

11月下旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.28頭(前年0.63頭、平年0.44頭)と平年並であった。



<防除上注意すべき事項>

- a 本種は、スイカ灰白色斑紋ウイルスを媒介する。
- b 施設周辺の雑草は本種の発生源となるので、除草を行う。
- c 摘葉等による残渣は本種の発生源となるので、ビニール袋に入れるなどして密閉し、施設外に持ち出し処分する。
- d 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。
- e 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

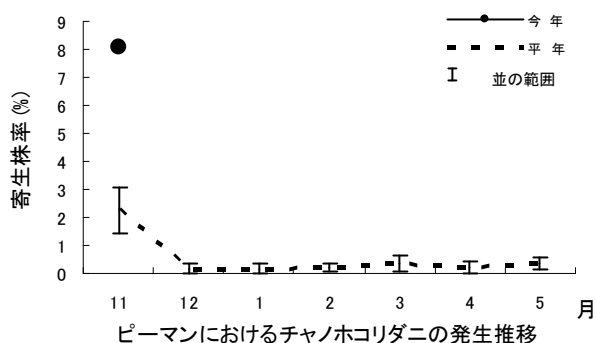
7 ピーマン

(1) チャノホコリダニ

発生程度 : 多

予報の根拠

- 11月下旬の調査の結果、寄生株率は8.1%(平年2.3%)と平年より高かった。
- 気象予報によると向こう1か月の気温は高い確率が50%、降水量は平年並または高い確率が40%であり本種の発生に適していると考えられる。



<防除上注意すべき事項>

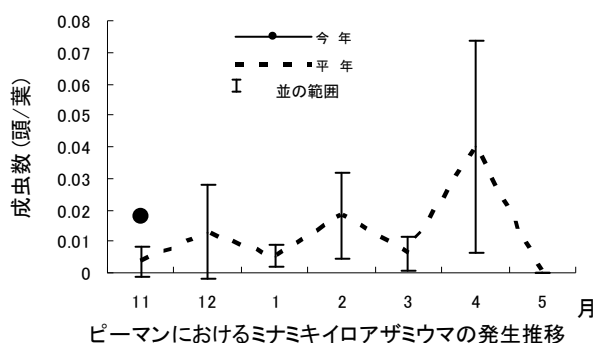
- 摘葉等の残渣は、ビニール袋に入れるなどして圃場外へ持ち出し処分する。
- 増殖が早く、多発すると防除が困難になるので早期発見・早期防除に努める。
- 芯葉部や果実のへたなど薬剤がかかりにくい場所に寄生するので、むらのないよう丁寧に散布する。

(2) ミナミキイロアザミウマ

発生程度 : 多

予報の根拠

4月下旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.02頭(平年0.01頭未満)と平年より多かった。



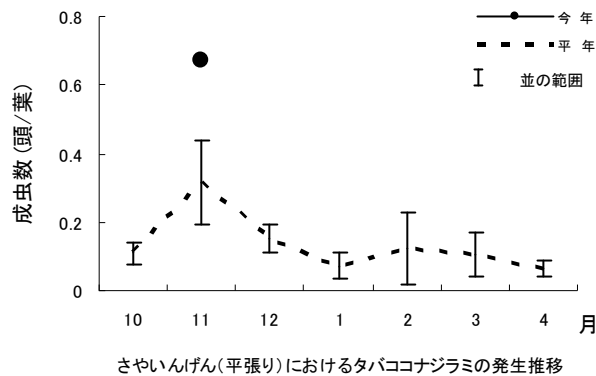
<防除上注意すべき事項>

- 本種はウイルス病の媒介虫であるので、発生に注意する。
- 施設の出入口には二重カーテンなどを設置し、本種の侵入を防ぐ。
- 施設周辺の雑草は本種の発生源となるので、除草を行う。
- 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。
- 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

8 さやいんげん(平張り)

- (1) タバココナジラミ
発生程度 : 多
予報の根拠

11月下旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.7頭(前年0.2頭、平年0.3頭)と平年より多かった。



<防除上注意すべき事項>

- 本種はさやの白化を引き起こすので、出入口の防虫ネットは二重にするなどして、施設内への飛来侵入を防止する。
- 摘葉等による残渣は、本種の発生源となるので、ビニール袋等に入れ圃場外へ持ち出し処分する。
- 黄色粘着板等を設置し、早期発見・早期防除に努める。
- 発生源となる周辺雑草の除去に努める。
- 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

9 小ぎく(年末出荷用)

- 白さび病の防除対策
 - 関係機関からの情報によると、11月中旬に購入苗(輪ギク)栽培圃場で本病の発生が確認されている。
 - 多湿条件下で発生するので、不要な下葉、脇芽は除去し、通風をよくする。
 - 発病葉は除去し、ビニール袋に入れるなどして圃場外に持ち出し、焼却などの処分を行う。
 - 発生時期には予防散布を行うとともに、葉をよく観察し初期発生を見逃さない。
 - 防除効果を高めるため、薬剤耐性菌が発現しないようローテーション散布を行う。
 - 栽培終了後は近隣圃場や次作の発生源にならないよう、不要な株は速やかに処分する。
- アザミウマ類の防除対策
 - 11月の調査の結果、アザミウマ類による葉の被害がみられ、被害茎率は5.6%(前年15.2%)、被害圃場率は37.5%(前年61.1%)であった。
 - 虫見板等により早期発見し、早期防除に努める。
 - 薬剤抵抗性を発達させやすいので同系統薬剤の連用を避ける。
- ハダニ類の防除対策
 - 11月の調査の結果、ハダニ類の葉への寄生がみられ、寄生茎率は15.4%(前年22.2%)、発生圃場率は25.0%(前年50.0%)であった。
 - 発生源となる圃場内外の雑草を除去する。
 - 多発すると防除が困難になるので、早期発見・早期防除に努める。
 - 薬剤抵抗性を発達させやすいので同系統薬剤の連用を避ける。
- ハモグリバエ類の防除対策
 - 11月の調査の結果、被害葉率は2.7%(前年0.7%)、発生圃場率は25.0%(前年44.4%)であった。
 - 摘葉等による残渣は本種の発生源となるので、ビニール袋に入れるなどして圃場外に持ち出し処分する。
 - 多発すると防除が困難になるので、黄色粘着シート等により、早期発見・早期防除に努める。
 - 圃場内外の雑草は本種の発生源となるので除去する。